

# 市民文芸

## 短歌

令和七年度第五十四回  
阿南市春季短歌大会 選

### 入選

昭和より平成・令和と生き抜きて食糧難の戦後を  
おもふ 宮本久美子  
逆縁に遭う姉の肩抱きしめる「長く生きればいろ  
いろあるね」 十河 慶子  
幸・不幸吹雪きて消える泡沫の夢となりゆくシル  
バー談話 吉永賀代子  
「似合うよ」とただひとことでスカーフを六十年  
たつてもいまだ巻きおり 長尾 久子  
梅古木あまたの蕾ふくらませ人生百年まだこれか  
らと 宮崎喜美子  
ふるさは路傍の草もなつかしくバス降りてしば  
し辺り見回す 金本ひろみ  
3Kで汚い仕事と言う漁夫にだけどきれいな仕事  
なんてない 島尾 妙  
咲き満つる紅山茶花を觀し亡夫の腰掛石は花冷え  
のまま 福岡 孝子  
蘇生して名前も住所も言えた義母次の問いかけ何  
にしようか 吉形 和恵  
人類を試すが如く列島は酷暑・寒波が迫り来、い  
かに？ 佐野 智子  
一輪の梅の明るさ潜みいる鯉はそろりと動き始め  
つ 西條 悦子  
雪下ろしの老女転落死のニュース胸に重たし雪し  
まく夜半 佐坂 恵子  
雪雲の広がる夕べソロバン塾のだるまストロブに  
皆かじりつく 安本 生美

## 俳句

阿南市俳句連合会 選

盆提灯ゆらゆらゆれて灯りけり  
両頬に葡萄を含み得意顔 岡久 玲子  
海見えるテラスのランチ紅葉付  
子に運転委ねる帰省なりしかな 谷 由美子  
想ひ出は数へ切れぬよ鯛雲 横井 知昭  
秋風に母の背丸く車椅子 田中 栄子  
蟪蛄や死して青きの斧収む 駒木 幹正  
花のなき境内の今椿の実 前原 真理  
踊り子もお国さまざま「あらそわ連」 東條 明宏  
一雨を待ち切れずして大根蒔く 小西 晴美  
米田 豊子  
大西 裕子

## 川柳

阿南川柳会 選

今一度帰省したいな老いの足  
記憶にはございませんと突き放す 西田 修身  
飛ぶ事も走れる事も夢となる 野村 敏子  
大漁の浜に女の顔光る 佐藤つたえ  
そんな過去記憶にないと逃げ一手 神野 鈴代  
手間暇はかけぬと言つて小半日 篠原 良子  
好きなどと言つた記憶のない夫婦 橋本 征介  
若木アヤ子

### 一般応募

アルバムへ想い出探る秋の夜  
夕光にひとときわ映える木守柿 島尾美津子  
絵手紙で折々咲かす老いの部屋 泰地 重美  
武田 敏子

## 漢詩

阿南漢詩研究会・青松吟社 選

### 田圃之秋櫻

体耕田圃弄雲霞  
千頃村園分外嘉  
紅白淡濃奇彩畫  
仙宮描出九秋花

### 消夏雜詩

炎蒸日午早如焚  
撒水下簾離暑氛  
時到夕陰涼入袖  
北窓風鐸把杯聞

### 吾郷秋祭

那川漫漫白雲流  
旗幟鼓鉦村社頭  
煙火大音驚賽客  
欣欣久濶遇良儔

吉形 和恵

休耕田圃 雲霞を弄す  
千頃の村園 分外に嘉し  
紅白 淡濃 奇彩の画  
仙宮 描き出す九秋の花

高橋 静雄

炎蒸す日午 早焚くが如し  
水を撒き簾を下げ暑氣を離る  
時は夕陰に到り涼袖に入り  
北窓の風鐸 杯を把つて聞く

大地 和子

那川 漫々 白雲流れ  
旗幟 鼓鉦 村社の頭  
煙火の大音 賽客を驚かし  
欣欣 久濶 良儔に遇う

